

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|-------------------|
| 事業所番号 | 4171400205 | | |
| 法人名 | 有限会社 ケアサポート・KSN | | |
| 事業所名 | グループホーム おうち | | |
| 所在地 | 唐津市相知町平山1196番地1 (電 話) 0955-51-8330 | | |
| 評価機関名 | 社団法人 佐賀県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 佐賀市八戸溝1丁目15番3号 | | |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 11 月 28 日 | 評価確定日 | 平成 20 年 12 月 30 日 |

【情報提供票より】(平成20年9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 16 年 9 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 11 人 | 常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 | 5.725 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-----------|-------|--|
| 建物構造 | 木造平屋瓦葺 造り | | |
| | 1 階建ての | 1 階部分 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|--------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 28,000 円 | その他の経費(月額) | 18,000 円 | |
| 敷 金 | 有(84,000 円) | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 280 円 |
| | 夕食 | 380 円 | おやつ | 80 円 |
| | または1日当たり | | 940 円 | |

(4) 利用者の概要(平成20年9月5日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 9 名 |
| 要介護1 | 2 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 名 | | |
| 要介護5 | 名 | | 要支援2 | 名 | |
| 年齢 | 平均 87.5 歳 | 最低 | 77 歳 | 最高 | 94 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--------------------|
| 協力医療機関名 | (医)愛仁会新屋敷病院 小田歯科医院 |
|---------|--------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

さわやかな風そよぐ相知町平山地区に立地する平屋作りのホームである。近くには「日本の棚田百選」に選定された蕨野の棚田があり、自然に恵まれた環境の中で「入居者の尊厳と地域との共生」の理念を「基本姿勢」として10項目掲げ、入居者の個性や思いを大切に、その方に合った地域での暮らしができるように、入居者、職員が共に支えあい安心して過ごすことができるよう取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の結果を踏まえ、改善が必要な部分は全体で話し合いを持ち、前向きに取り組まれている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を日々のサービスを見直す機会ととらえ、全職員で取り組まれている。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は開催されているが、区長や民生委員の参加が得られていない。地域の幅広い立場の方の積極的な参加を得ることで、サービスの向上に活かされることが望まれる。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームだよりを発行し、ホームの行事や様子等の報告が行われ、健康面での変化があった場合は随時、電話での報告が行われている。また意見箱の設置や面会時に家族の意見の収集に努め、ホームの運営に反映されている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方との交流会を定期的に行い、地域の行事にも参加し、買物や散歩等に地域の方との挨拶や会話を交わすように努められている。</p> |

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 入居者の個性やその方にあった地域との関わりを大切にしたいという「入居者の尊厳と地域との共生」という理念のもとに10項目の基本指針が設定されている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎朝、理念を読み上げることで理念の実践が確実に理解し実行できるように努められている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | ホームでの交流会に毎月、地域の方も参加され、地区の運動会にも入居者や職員も参加し、地域との交流が図られている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員全員が評価の意義を理解できるように努められ、前回の外部評価の結果を踏まえ改善が必要な部分には全体で話し合いながら前向きに取り組まれている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催され、日常の介護サービスの内容や行事の報告等が行われている。また地域の行事等の情報収集が行われている。 | ○ | 区長や民生委員をはじめ、地域住民の方など様々な方々のさらなる参加を呼びかけ協力を得ることでサービス向上に活かされることが望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域での勉強会等に参加し、市町村と連携してサービスの質の向上に取り組まれている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月、利用者の心身の状況やホームの行事、様子などについてホームだよりで報告されている。また、健康面で変化があった場合は随時、電話での報告が行われている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置や面会時など、折りに触れての声かけにて家族の意見の収集に努め、ホームの運営に反映されている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 関わりを多く持ち、傍に寄り添い傾聴しながら安心して過ごす事ができるように支援されている。家族にはホームだよりで伝えられている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内外部研修は実施されていたが、計画的な研修の取り組みができていない。 | ○ | 計画的な研修や職員の経験年数に応じた研修の体制を作り、取り組まれる事が望まれる。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣の事業所との意見交換、勉強会に毎月参加される事で、サービスの質の向上に努められている。 | ○ | 毎月の交流会や勉強会には管理者だけではなく、ホームの職員同士が積極的に参加交流する事で更なるサービスの質の向上に期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 併設の施設やデイサービスを利用しながら、ホームの雰囲気や他の入居者とも徐々に慣れていけるような体制ができています。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日々の生活の中でお互い共同して行うことで、喜怒哀楽を共にし支え助け合う関係が作られている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で入居者が望む暮らしの把握に努められている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護支援専門員を中心にして、入居者、家族、職員との話し合いが行われ、個別の介護計画が作成されている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の期間に応じて見直しが行われ、状態変化が見られた時は状況に即した新たな計画が作成されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 美容室、外食、買物等の外出支援や希望、状態に応じた柔軟な対応ができています。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医とは日々連絡をとられ、関係医療機関とも連携を図りながら往診、通院の支援が行われている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期に関する指針の説明は事前に行われている。その状態になった時に同意書をとられ、状態に応じた対応がなされている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 問題意識を持ちながら、入居者のプライバシーを損ねることがないように配慮されている。個人情報の取り扱いにも十分留意し対応されている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースや状態、思いを大事にしながらも、規則正しく生活ができるように支援されている。また個々の状態に合わせて柔軟に対応されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 敷地内にある畑へ野菜を一緒に取りに行ったり、調理の準備や配膳、片付けを職員と一緒に行われている。入居者と職員が食事を楽しまれている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入居者の心身の状況に応じて、週3回昼間の入浴が行われている。しかし夜間入浴や毎日の入浴も状況に応じた柔軟な対応ができています。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者の性格や生活歴を大切に、その方にあった対応や場面作りがなされ役割作りや楽しみ、気晴らし等の支援ができています。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 年々、全員の外出が難しくなっている。地域の方々の協力を得ながら個別の外出や買物等に外出の機会を多く作り支援されている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけない・拘束に関する勉強会が行われ、鍵をかけずに自由に入出入りできるように支援されている。また、状況に応じては一緒に付き添ったり、地域の方々の協力を得ながら安全面への配慮もできています。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 地域住民、消防団との避難訓練が年に2回実施されている。消火栓やホームの建物の構造、避難場所の確認が地域の方々とできている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個人の状態や疾患に応じた食事や量、形態、水分の提供が行われている。摂取量は毎食後確認し把握されている。夜間は枕元にペットボトルを準備し、いつでも飲める様に支援されている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 天窓から暖かい日が差し込み、リビングからも畑や景色を眺めることができ、季節感を感じることができる。また、座敷があり、冬にはこたつを置くなど家庭的であり、安心して過ごすことが出来るように配慮されている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 仏壇や写真、タンスを持ち込み、自分らしい個々にあった部屋作りができています。また、1.5帖は畳であり、和の温かみを感じることができる。 | | |